

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東部こども療育センターのびのび教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月19日	～	令和8年2月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日	～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月16日	～	令和8年2月18日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育として取り組んできたことや職員のスキルを活かし、担任に丁寧に関わり方を伝えられること。こどもにあった遊びや関わりを実際に担任に見せて知らせていること。	担任からの悩みを聞き取り、こどもに応じた活動の提案を行い、活動後のこどもの姿から思いの読み取りや次のねらい、クラスの関わりで難しかったところを話し合い、次の保育に活かせるように話しあった。	OTや発達、保護者支援などの学習会を行い呼びかける。地域の保育園、幼稚園、こども園に親子広場ふたばや学習会、保育所等訪問支援事業などの事業を通して療育を知ってもらい、必要とされるセンターとしての取り組みを次年度考え取り組んでいく。
2	保護者の思いを代弁し、園と保護者との関係が円滑になるように進めていること。	保護者に聞き取った内容を担任と共有し、今後の支援の仕方について話し合った。また、担任の取り組んでいる保育を認めていくことで自己肯定感をもて、保護者やこどもに対する関わりを前向きに取り組んでいけるようにした。	上記と同じ。
3	相談支援事業所や市の巡回相談の専門職、関係機関と連携していること。	関係機関と情報を共有することで、多角的な視点で必要な支援を行うことができる。	今後も関係期間と連携し、情報共有を図るとともに、それぞれの役割を明確にして支援を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			